



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 来賓挨拶                                                                              |
| Author(s)        | 錦, 泰司                                                                             |
| Relation         | 第6回 人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書<br>I 講演の記録                                               |
| Issue Date       | 2021-03-29                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/83480">https://hdl.handle.net/2115/83480</a> |
| Type             | conference presentation                                                           |
| File Information | JF6_hokudai_1-2_Nishiki.pdf                                                       |





## 来賓挨拶

文部科学省 研究振興局 振興企画課 学術企画室長 錦 泰司

本日のフォーラムは、人文学・社会科学が主導する学際研究プロジェクトについて様々な事例を参考に議論を深めるものと伺っております。人文学・社会科学は、意味や価値を探求し、人間の精神生活の基盤を築くとともに、社会的諸問題の解決にも寄与するという重要な役割を担っております。こうした中で、社会構造の変化や科学技術の急速な進展を背景に、「科学技術基本法」の対象に人文科学のみに係る科学技術も加えるという改正がなされたところであり、今後、人文科学の知見も活用して社会の具体的問題を解決する取り組みが推進されることとなります。社会が向き合う課題は複雑さを増しており、その解決に当たっては、人文学・社会科学が能動的に役割を果たせる学際的アプローチに対する期待も高まっております。一方で、これまでの学際研究プロジェクトの取り組みにおいては、本来意図する研究のスケール感が失われることや、人文学・社会科学の研究者がインセンティブを持ちにくいといった課題があり、学際研究の体制構築について幅広い検討が求められているところです。

文部科学省においても、人文学・社会科学が主導する学際研究の振興の重要性を認識しており、本日、東京大学の城山英明先生にご発表いただく、「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」について、実施機関となった大阪大学と連携して準備を進めています。

このような中、学際研究について、本日のように様々な事例をご紹介いただき、議論が行われることは、大変有意義なものであると考えております。

また、学際研究プロジェクトの推進に当たって重要な要素の一つは、幅広い分野の事情や学際研究における課題について理解が深い研究者や URA、事務

系職員といった人材です。本フォーラムがそうした人材の育成のきっかけとなることも期待しております。

最後になりましたが、本フォーラムを通じ、人文学・社会科学が主導する学際研究について議論が深まり、我が国の人文学・社会科学研究が一層進展することを祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。